

平成26年度弥富市小中学校適正規模に関するとりまとめ

平成27年3月

弥富市小中学校適正規模検討委員会

1. 検討の経緯

平成25年7月24日に弥富市小中学校適正規模検討委員会を設立し、市内の小・中学校の児童数の現状と今後の推移、学校施設等の現状について、そして学校の標準適正規模について検討してきた。

平成25年度の取りまとめの内容は、小学校については、メリット・デメリットいろいろあるが、通学距離を考えた場合、小規模校同士の統廃校は極めて困難と考える。学校区に関して見直しをする場合、現在、地域の行事や子ども会の活動など、小学校区と密接なつながりがあり、これを変えようとした場合、地域住民や保護者の理解を得るのが難しい。

中学校については、同じようにメリット・デメリットいろいろあるが、市内には過大規模校はないが、規模が大きくなり過ぎると、一概には言えないが、正常に学校経営ができなく、教育困難になる傾向がある。現在、弥富中学校が大規模校に該当するが、これ以上過大になっていくことを防ぐ方策をとるのは必要と考える。その方策としては、中学校の通学区域を変更することによって、適正規模の確保に努める。そして、財政上の問題を考慮しなければ、中学校を新設することによって適切な対応を行う。今後、中学校の規模をどのようにするかということが大きな問題となってくる。

今後の検討として、今回、学校の適正規模に関しては、学習面、生活面、学校運営面・財政面、その他の4点から検討を行い、その結果、中学校を過小規模、または過大規模にすることは望ましくないという結論が出た。そのことにより、中学校の通学区域を見直すことによって再編成をする方策が提案された。そのためには、現在の学校名にとらわれない形で、中学校の新設も視野に入れ、生徒の教育環境に格差が生じないように、また学校と地域との関係を考慮して、保護者や地域住民の理解を得て、合意形成に努めることが重要であるということが話し合われた結果である。

2. 検討事項

○中学校区について

第5回 平成26年7月4日開催

◇中学校の再編の枠組みについて検討

(発言内容)

- ・人数が増えることによって部活動も増え、また、教師の数が増えることによってバリエーションが出てくる。特に音楽、美術などの先生が非常勤講師ではなく常勤の教師として確保できる。
- ・中学校区を地域ごとで生徒を移動した場合の案を示してもらい検討する。
- ・中学校、特に十四山中学校をどうするかが、そこに結論づけられるのではないか。
- ・中学校区の障壁が一番大きな問題である。
- ・現在地区ごとでいろいろ活動しているため、中学校の再編がされた場合、自治会の線引きが難しいと思われる。

第6回 平成26年10月29日開催

◇中学校の再編の枠組みについてシュミレーションに基づいて検討

中学校区の見直しについて

(案1)

東平島（五反割・大井桁、小井桁・川南）の108人を、弥富中学校区から十四山中学校区に変更

学校名	生徒数(変更前)	生徒数(変更後)	クラス数(変更前)	クラス数(変更後)
弥富中学校	617	509	17	14～15
十四山中学校	147	255	6	8～9

(案2)

佐古木の近鉄線以南の35人を、弥富北中学校区から十四山中学校区に変更

学校名	生徒数(変更前)	生徒数(変更後)	クラス数(変更前)	クラス数(変更後)
弥富北中学校	490	455	15	14
十四山中学校	147	182	6	7

(案3)

佐古木の近鉄線以南の35人を、弥富北中学校区から十四山中学校区に変更し、三百島の9人を十四山中学校区から弥富北中学校区に変更

学校名	生徒数(変更前)	生徒数(変更後)	クラス数(変更前)	クラス数(変更後)
弥富北中学校	490	464	15	14
十四山中学校	147	173	6	7

(案4)

東平島（五反割・大井桁、小井桁・川南）の108人を、弥富中学校区から十四山中学校区に変更し、佐古木の近鉄線以南の35人を、弥富北中学校区から十四山中学校区に変更し、三百島の9人を十四山中学校区から弥富北中学校区に変更

学校名	生徒数(変更前)	生徒数(変更後)	クラス数(変更前)	クラス数(変更後)
弥富中学校	617	509	17	14～15
弥富北中学校	490	464	15	14
十四山中学校	147	281	6	8～9

(案5)

東平島（五反割・大井桁、小井桁・川南）の108人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の9人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更

学校名	生徒数(変更前)	生徒数(変更後)	クラス数(変更前)	クラス数(変更後)
弥富中学校	617	509	17	14～15
弥富北中学校	490	499	15	15
十四山中学校	147	246	6	8～9

※案1は、現在の行政区を分割しない状況での見直し案。

※案2～4は、近鉄線で、行政区を分割する見直し案。

※生徒の人数は、今年度の生徒の人数を基にしたもの。

(発言内容)

- ・十四山中学校を施設面で改善や校名の変更等をし、特色のある環境をつくりあげる。

第7回 平成27年2月18日開催

◇第6回で協議した案4、案5の将来動向を踏まえたシュミレーションに基づいて検討

☆各年度の生徒数は現在弥富市の小学校に通う4,5,6年生の児童がそのまま平成29年度に中学校1,2,3年生になった場合の各中学校の生徒数。以下同様に平成30年度は小学校3,4,5年生の児童が中学校1,2,3年生、平成31年度は小学校2,3,4年生の児童が中学校1,2,3年生、平成32年度は小学校1,2,3年生の児童が中学校1,2,3年生になった場合。ただし転入転出や私立中学校入学などの影響は考慮していない。

平成29年度

	弥富中学校		弥富北中学校		十四山中学校	
	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数
1年生	196	6	153	5	48	2
2年生	213	6	142	4	57	2
3年生	211	6	159	4	50	2
合 計	620	18	454	13	155	6

【案4】 東平島の111人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、佐古木の近鉄線以南の29人を弥富北中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の4人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
1年生	166	△30	5	△1	144	△9	5	0	87	39	3	1
2年生	166	△47	5	△1	131	△11	4	0	115	58	3	1
3年生	177	△34	5	△1	154	△5	4	0	89	39	3	1
合 計	509	△111	15	△3	429	△25	13	0	291	136	9	3

【案5】 東平島の111人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の4人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
1年生	166	△30	5	△1	154	1	5	0	77	29	3	1
2年生	166	△47	5	△1	143	1	4	0	103	46	3	1
3年生	177	△34	5	△1	161	2	5	1	82	32	3	1
合 計	509	△111	15	△3	458	4	14	1	262	107	9	3

平成30年度

	弥富中学校		弥富北中学校		十四山中学校	
	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数
1年生	207	6	166	5	43	2
2年生	196	5	153	4	48	2
3年生	213	6	142	4	57	2
合 計	616	17	461	13	148	6

【案4】 東平島の117人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、佐古木の近鉄線以南の27人を弥富北中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の5人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
1年生	167	△40	5	△1	164	△2	5	0	85	42	3	1
2年生	166	△30	5	0	144	△9	4	0	87	39	3	1
3年生	166	△47	5	△1	131	△11	4	0	115	58	3	1
合 計	499	△117	15	△2	439	△22	13	0	287	139	9	3

【案5】 東平島の117人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の5人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
1年生	167	△40	5	△1	169	3	5	0	80	37	3	0
2年生	166	△30	5	0	154	1	4	0	77	29	2	△1
3年生	166	△47	5	△1	143	1	4	0	103	46	3	0
合 計	499	△117	15	△2	466	5	13	0	260	112	8	△1

平成31年度

	弥富中学校		弥富北中学校		十四山中学校	
	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数
1年生	222	7	153	5	47	2
2年生	207	6	166	5	43	2
3年生	196	5	153	4	48	2
合 計	625	18	472	14	138	6

【案４】 東平島の１１２人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、佐古木の近鉄線以南の２６人を弥富北中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の７人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
１年生	180	△42	6	△1	145	△8	5	0	97	50	3	1
２年生	167	△40	5	△1	164	△2	5	0	85	42	3	1
３年生	166	△30	5	0	144	△9	4	0	87	39	3	1
合 計	513	△112	16	△2	453	△19	14	0	269	131	9	3

【案５】 東平島の１１２人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の７人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
１年生	180	△42	6	△1	156	3	5	0	86	39	3	1
２年生	167	△40	5	△1	169	3	5	0	80	37	2	0
３年生	166	△30	5	0	154	1	4	0	77	29	2	0
合 計	513	△112	16	△2	479	7	14	0	243	105	7	1

平成３２年度

	弥富中学校		弥富北中学校		十四山中学校	
	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数
１年生	200	6	148	5	49	2
２年生	222	6	153	4	47	2
３年生	207	6	166	5	43	2
合 計	629	18	467	14	139	6

【案４】 東平島の１１８人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、佐古木の近鉄線以南の２３人を弥富北中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の８人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
１年生	164	△36	5	△1	143	△5	5	0	90	41	3	1
２年生	180	△42	5	△1	145	△8	4	0	97	50	3	1
３年生	167	△40	5	△1	164	△2	5	0	85	42	3	1
合 計	511	△118	15	△3	452	△15	14	0	272	133	9	3

【案５】 東平島の１１８人を弥富中学校から十四山中学校へ変更し、三百島の８人を十四山中学校から弥富北中学校へ変更した場合

	弥富中学校				弥富北中学校				十四山中学校			
	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減	生徒数	増減	クラス数	増減
１年生	164	△36	5	△1	150	2	5	0	83	34	3	1
２年生	180	△42	5	△1	156	2	4	0	86	39	3	1
３年生	167	△40	5	△1	169	3	5	0	80	37	2	0
合 計	511	△118	15	△3	475	8	14	0	249	110	8	2

(発言内容)

- ・生徒を移動させるだけでなく、受け入れる側の十四山中学の設備や校舎等の、ハード面を整備し、教育内容も含めた人材、そういうものを充実しないと解決しない。
- ・生徒を移動させれば全く理想的とは言えないが、バランスがとれた人数になってくると思われる。ただ一番の問題は自治会の問題をどう解決していくかである。
- ・子供たちにとって、学びがいのある、頑張ろうという気持ちになる、そういった学校を教育委員会としては確保していく必要があるので、単なる数字の数合わせというところが最優先になることについては、若干危惧もある。
- ・十四山中学に防災に対応できる建物を建てれば、ある意味では校舎だけではなくて防災施設となり住民の納得が得られやすくなるのではないかな。

３．まとめ（平成２６年度）

今年度、中学校区について一部地域を変更した場合、また生徒数の将来動向を踏まえたシュミレーションにより検討した結果、東平島の生徒を十四山中学校へ、三百島の生徒を弥富北中学校へそれぞれ移動させた場合が数上ではバランスのとれた形になりクラス数も増えることによって学校運営を行う上でも理想的な規模になる。

しかし、ただ中学校区の見直しをただけでは、生徒、保護者、そして地域の関係者の理解を得るのは難しい。

また、現在コミュニティの事業は小学校区単位で行われているため、変更した地域の生徒は実際の住所地のコミュニティとは違ったコミュニティの事業（体育祭や防災訓練といった自治会の行事）に参加することになる。その問題を解決しない限り再編は難しい。

そのためには、既存の十四山中学の設備、施設、それから教育内容も含めた人材、そういうものを充実させ、まったく新しい学校をつくり魅力のある中学校にしてそこに行きたいなと思えるような中学校にしていくということが前提になると思われる。

また、校名を変えることによって、既存のイメージを払拭する必要がある。

ただ、単なる数字の数合せというところが最優先にならないようにし、子供たちにとって学びがいのある、頑張ろうという気持ちになるような環境をつくらなければならない。

4. 今後の留意事項

- 中学校区の見直しにむけて、生徒、保護者、学校関係者、地域住民、関係団体等の理解と協力が不可欠であり、地域及び関係機関等と十分協議を行うこと。
- 魅力のある、また特色のある中学校にするために、施設、設備、教育内容の向上といった環境整備に努めること。
- 新たな中学校の校名を検討すること。
- 通学する中学校が変わった場合、3 学年が一度に動くことになると考えられるため、どのタイミングで行うか。また、かなり前から周知をして準備をしていかなければならないこと。